

第4回理学部海外渡航制度（フランス）

五所恵実子（国際交流室 講師）

1999年から隔年で実施されてきた理学部海外渡航制度も今年で第4回を迎え、今回も留学生1名を含む10名の理学部3、4年生が2004年3月15日から23日までの9日間、フランスはストラスブールにあるルイ・パスツール大学（ULP）、及びパリのパスツール研究所を訪問した。ストラスブールはフランスでもドイツの国境に近いアルザス・ロレーヌ地方に位置し、大学の建物や町並みもドイツ文化の影響を受けている。滞在中は天候にも恵まれ3月中旬にも関わらず日中は初夏を思わせる陽気であった。

ルイ・パスツール大学は学生数18,000人、教職員数2,500人の理系の大学である。全学生の21%を留学生が占め、また新しい教員の4人に1人は海外からの着任で大学の構成員は国際色が非常に豊かである。授業は基本的にフランス語で行われることもありアフリカ諸国からの留学生が多い。ルイ・パスツール大学のそばには文系のマルク・ブロク大学と社会科学系のロベル・シュマヌ大学があり、日本からの交換留学生のための英語プログラムや日本に留学する学生向けの日本語プログラムの提供など、ストラスブール大学群として互いに協力し合っているよう

ある。キャンパスは壁で仕切られることもなく町の風景の一部として自然に存在しているため、どこからが大学でどこからが町なのかが分からないが、そのためか大学にブックストアはなく、本を買う時には町の中の本屋さんに行くことや、カウンセリング担当の先生のオフィスは町の中にあり週1回、大学に先生が来校するなど大学と町が一体となっている印象を強く受けた。

フランス到着翌日には会館長のダニエル・アレクサンドルさん主催の歓迎パーティーが日仏学会館で開かれ、ディレクターのステファニー・アン・モロさん、そして今年の秋から日本の大学に1年間留学するというフランスの学部生10名の出迎えを受けた。ストラスブール日本領事館の村田領事から歓迎のご挨拶を頂いた後、目にも鮮やかで美味しいサンドイッチやワインを手に歓談の時を過ごし、学生達もお互いにいろいろな話をする事が出来たようである。その後ヨーロッパ議会を訪問したが、目の覚めるような近代的で真新しい建物と、どんなに小さい国であっても加盟国の言葉を大切に10ヶ国語以上を通訳するブースに、各国の多様性を尊重して協力し一つにまとまろうとするEUの

意気込みを感じた。

続く3日間は博物館や天文台、植物分子生物学研究所（IBMP）、超分子科学工学研究所（ISIS）などの見学や参加者それぞれの分野に分かれての研究所訪問を行った。IBMPではブズバ教授と岡山大学から留学中の千葉壮太郎さんの案内で研究室や屋上にある温室を見学し、実際の研究生活についてもお話を伺うことが出来た。またディレクターのキンツィンガー氏の案内で見学したISISの新しい研究棟には建物内に中庭やちょっとしたコンサートホールがあり、広々とした研究室と窓の外に見える美しい町並みにはみなため息をついていた。ストラスブールでの最後の晩、地元のアルザス料理レストランで開かれた送別夕食会では滞在中にお世話になった方々と、学生同士の交流、話す機会を作りたいというこちら側の希望を受けて日本に留学するフランスの学生を再度招待して下さっていた。彼らの留学先は九州大学、京都大学、北海道大学など様々だが、学生達はまるで以前からの友人のように打ち解けて話をし、今度は東京で再会しようとする様子であった。

今回のULP訪問はフランス側では学振の中谷先生、東大側では化

学専攻の塩谷先生のお力添えで実現したものであり、この場をお借りして両先生に改めて御礼申し上げます。また、ULP 国際交流室長のミシェル・ドウベさん、スタッフのミシェル・マニエさん、ISIS のコリン・ガブリロヴィッチさんにはプログラム全般にわたり多大なご協力を頂き心から感謝している。彼女たちの配慮と臨機応変な対応のお陰で学生達は短い滞在期間にもかかわらず多くのことを経験、吸収することが可能となった。また今回、国際交流委員会委員長の坂野先生がプログラムに同伴し

て下さったためパリのパスツール研究所訪問も実現し、道中でもいろいろと研究に関する話をして頂いたことで学生の研究に対する視野が大いに広がり深まったようである。坂野研出身で現在ポストドクターとしてパスツール研究所におられる中谷洋子さんに研究室を案内して頂き、フランスの研究所の研究環境やそこで働く研究者の様子を間近で見ることが出来たことも大変貴重な経験となった。学生達は9日間を通して分野も学年も異なる10人の仲間同士の交流を深める一方で、ストラスブール

滞在中ずっと案内役兼通訳を務めてくれた学生のフィリップを始め、実に多くの人と出会い、様々なことを話し、広い視野を持つことが出来たように思う。

この海外渡航制度は毎回多くの方々のご理解とご協力の上に成り立っている。プログラム運営に当たりお世話になった東大理学部の先生方、受け入れてくださったルイ・パスツール大学の教職員の皆様に深く感謝するとともに、今後ともこのプログラムへのご支援をお願いしたい。

海外渡航参加者の声

第4回海外渡航報告レポート

山本ライン (生物科学専攻 修士課程1年)

2004年はフランスのルイパスツール大学(ULP)を訪問しました。ULPはストラスブールに位置し、優秀な科学研究が数多くなされていることで有名です。たくさんの方の学生や研究者が各国から集まっています。

ストラスブールはアルザス地方のバ・ライン県の主要都市です。15分バスに乗れば、国境を越えてドイツに入ることができます。大きすぎず小さすぎず、とても丁度いいサイズの町です。人々が心地よい距離を保って暮らしているという印象を受けました。美しいイル川が流れる町の中心には荘厳で

神聖な大聖堂があります。

ストラスブールでの主要な交通手段は「トラム」です。見かけはリニアモーターカーのようです。トラムとはバスと電車を足して二で割ったような乗り物です。バスのように通りを車と一緒に走っていますが、その形やチケットの仕組みなどは電車のようです。「現代的なものが伝統的な街中を走り抜ける」といった感じでしょうか。ストラスブールの人々はみなとても親切で心の温かい人たちでした。街中で、スーパーマーケットで、バスで、ありとあらゆるところで、どれだけ助けてもらった

ことかわかりません。私たちは本当に本当にストラスブールという町とそこに住む人々のことが大好きになりました。大好きになりすぎてパリに移動した時には、どんなに美しく、歴史的に価値のある建造物があっても、人々の間に横たわる距離が大きいかを感じた時には、ストラスブールが本当に恋しくて仕方がなかったです。そして、ストラスブールという町に滞在できたことをこの上なく幸せに思いました。

まず、私たちはストラスブールに5日間泊まった後(+初日の一晚)、パリに移動し2日間滞在し

ました。ストラスブールでの活動初日、フランスと日本の大学協定オフィスである日仏大学会館で、ルイ・パスツール大学、マルク・ブロク大学、そしてロベル・シュマヌ大学の学生も参加して私たちの歓迎パーティーが開かれました。とても楽しいランチパーティーでした。おいしいワインとおつまみを食べながら、たくさんおしゃべりして笑いました。終始和やかな雰囲気でした。

最初の3日間は10人全員が行動をともにしました。しかし、金曜日は3つのグループに分かれて、それぞれが興味のある研究機関を訪れました。そして、土曜日は自由行動の日でした。ドイツやスイスに行った人もいました。ストラスブールでの時間を堪能する人もいました。

昼間は主に研究施設や博物館を訪れ、知的活動にいそしみました。私たちはULP関連施設のラボの贅沢な設備や管理の行き届いたシステムに深く感心しました。また私たちにとって印象深かったのは、私たちと同じ日本人研究者がその研究所の一員として認められるために、凄まじい努力をしたというお話を聞いたときでしょう。夜になると、ストラスブールの学生やスタッフ、先生たちとパーティーをして楽しみました。五所さんのお部屋で、ガイドをしてくれたフィリップと彼の仲間たちをおもてなししましたし、Le Gurtlerhofというアルザス料理のレストランで



ウェルカミングパーティーにて

は知り合ったほとんど全ての人でディナーパーティーをしました。私たち東京大学のメンバーだけのパーティーもしました。どのパーティーも忘れられない思い出がたくさんあります。夜は毎晩、この上なく愉快でした。

パリでは名所や美術館を巡りました。月曜の午後には生化学と生物の学生はパスツール研究所を訪問しました。以前、坂野先生の研究室に所属してらした中谷洋子さんが私たちを案内してくれました。

国際交流室室長のミシェル・ドゥベさんと、サポーティングスタッフのミシェル・マニエさんにとっても感謝しています。お二人は、私たちの滞在が最高に楽しく有意義で居心地のよいものになるように、私たちのわがままを聞き、尽力してくださいました。私たちが全てのプログラムに満足することができたのは彼女たちのおかげです。本当にありがとうございました。

そして、忘れてはならない、忘

れられないのがフィリップです。フィリップはストラスブール滞在中ほとんどずっと私たちのガイドを務めてくれました。彼はマルク・ブロク大学日本語学科の学生なので、日本語が非常に流暢です。彼のおかげで旅の間中ずっとトラブルなしでいられました。彼はとても日本が好きで、すてきでおちやめな人だったので、私たちはすぐに彼とうちとけて仲良くなりました。彼と彼の仲間を招待したホームパーティーはみんなにとって本当にいい思い出となりました。

ストラスブールでの人々との出会いはかけがえのないことでした。勉強や研究、人生について、恋人とのことについて、などなどたくさんのお話を話しました。時として、意見の相違に驚くこともありましたが、ほとんどの点については共感しあえました。彼らとはまだe-mailでやりとりを続けています。この友情がずっと続くことを願っています。